

フラメンコの樹

第4回

鈴木 眞澄 (バイラオーラ)

Masumi Suzuki / 1958年中野生まれ。6歳でバレエ。12歳で新体操。15歳フラメンコ。18歳渡西。21歳結婚。22歳雄輔出産。23歳麻衣出産。25歳教室開設。26歳離婚。34歳雄輔渡西。36歳麻衣渡西。42歳会社設立。50歳初孫。60歳フラメンコ。俳句入門。



©GRASPANY

「目に見えないもの」

新型コロナウイルス……あのコロナの姿形が見えて空中に漂っていたらどうでしょう？ もっと自粛するかもしれないし、恐怖はより増してパニックになる人達も多いかも。福島原発事故の後にも目に見えない放射線の恐怖がありました。事故後にお稽古にうかがった時、福島の人達は何か縛られているような、真綿で首を絞められるような状態だったのを思い出しました。そして、フラメンコ踊るとその何やら得体の知れない、まわりつくような不安が一気に払われてすっきりしたこともよく覚えています。あの時は「放射線量の高い福島にお稽古に来てくださるんですか？」「皆さんが喜んでくださるなら、もちろん行きますよ〜！」こんなやりとりをしました。それが今回は真逆でして……東京から私がウィルス運んでしまう可能性、近くにいて励ましてあげられない歯がゆさ。でも、インターネットと言う便利なものが出来たおかげで繋がるができます。毎日YouTubeでメッセージを公開したりすると、そこそ全国から、いや全世界からうれしいお返事も来ます。

そう言えば、インターネットも目に見えないなあ。それから空気も。空気と言えば、夫婦は長い間に空気みたいな存在になる。意識しないけどないと困る？ それもなんだかさみしい関係ですね。亭主関白。亭主元気で留守がいい。定年退職後のご主人様を濡れ落ち葉と呼んだり……貼り付いてなかなか取れない。カカア天下と空っ風。奥さんの方が強いのと強風をかけた群馬県の特徴を表す物言い。夫婦にまつわる言い回しはたくさんあります。オシドリ夫婦。オシドリはペアでいつも一緒で仲が良い。一つ年上の姉さん女房は金のワラジを履いても探せ……これはどんなに手間暇かかってでも探す価値があるという意味。夫婦と言えば私は結婚生活が短かったので「連れ添う」という感じがうらやましいです。結婚前には一度しか会わなかった。それも火鉢に炭をくべに行っただけで会話もしなかったんだよ」と話してくれた叔母夫婦の金婚式。我慢したり耐えたり、それでも五十年連れ添うすばらしさ！ もう一緒にいられないなら死んでしまおう、くらい愛し合う仲間も簡単に離婚もする。結婚という形はだんだん変わって別居結婚や週末婚。共に過ごす時間が愛おしい、一日の最後に話したい相手、うれしい事、悲しい事などを共有できる人……そんなパートナーが欲しいなあと思います。でも一人暮らしに慣れてしまおうと、楽しい話が消えたら消えてしまえ〜と思うんだらうなあ(笑)。家族を作っていく基本的な人間関係である夫婦。その二人を見て育つ子供たちと孫たち。ご先祖さまから受け継いでそれぞれの番を生きる。周りの人達とも影響し合い、一人の人間の人生が描かれていく。今、みんなの物語は、

第○章「コロナと共に生きる」かしら？ 「大切なものは目に見えない」とも言います。時間……悲しんでも苦しんでも、楽しんで喜んでもおもしろがっても、過ぎる時間はおんなじ。みんな同じ死に向かって生きていく。ゴールがどこかもいつかもどんなか、みんな平等に知らされていない。明日死んでも悔いはないという考え方も、やるべきことはやったからなのか、だからこそ今日精一杯人のために生きようと思うのか。みんな同じ時間なのにとっても不思議。気……元氣、勇氣、本氣、覇氣、生氣、殺氣、邪氣、陽氣、陰氣……氣の流れが良いと元氣で、滞ると体調を崩すと言われます。気というものは心と関わるのか、身体となのか、頭なのか？ 昔昔、はじめて税理士の先生にご相談するべくお会いしたら、いろいろお話しの際最後に「あなたは、良い気を持つてるから今は大変でも真っ直ぐそのまま進みなさい！ハハハ！」とおっしゃって相談料も取られず、何度もご馳走にまでなっていました。別な昔昔、人生に悩んでいた時、スペインの下宿のおじさんが引退して一人住む田舎の家を訪ねたら、「何やらわからんが、お前は真っ直ぐ進めばいいんだよ！」と、暖炉の前で手を真っ直ぐ前に伸ばしながら言ったあの忘れぬ光景。人生に迷った時にはいつも誰かに導いてもらいました。気をしっかり持つてな！と。